

「支えていたつもりが・・・」

オペラやクラシックがお好きな80歳代の〇〇さん。

息子さんと2人暮らしで、息子さんは本当に一生懸命、認知症になったお母さんのお世話をされていました。

それはデイサービスすずらん梅丘をご利用されることとなり、まだ間もない頃のことです。

スタッフが朝、デイサービスの車でお迎えに行くと、

〇〇さん・・・「私は行かないよ、お前がいけばいいんだ！私を外へ出してあんたは出かけたんだろ！！」

息子さん・・・「そんなんじゃないよ、ほら、母さんだって一日中、俺の顔みてたって嫌になっちゃうだろうと思って、すずらんさんをお願いしたんだよ。」

〇〇さん・・・「嫌嫌嫌、嫌ったら嫌ああああああああ！！！！」

息子さん・・・「参ったなあ、すみませんねえ。今日は、難しいかも・・・」

デイスタッフ・・・「わかりました。でも、また後で、お迎えに来ることもできますが、どうされますか？」

息子さん・・・「いいんですか？時間が経てば少しは気分が変わるかもしれないけど、でも変わらなかったら悪いしなあ・・・」

デイスタッフ・・・「もし、お気持ちが変わらなければ、今日のところは、無理をせずにお休みということでも構いませんよ。」

息子さん・・・「そうですか、じゃ、また後でお願いします。悪いですね、全く参っちゃいますよ、母には。」

そのようなことがしばらく続き、デイに来られる時と来られない時はありましたが、〇〇さんご自身も、デイサービスに少しずつ慣れて来られ、私たちも〇〇さんが今まで

大切にされてこられた考え方や生き方、人柄、好きな事、嫌いな事などなど、いろいろと知っていく中で、すずらん梅丘が、少しずつご本人の居場所、安心できる場所となっていったように思います。

デイスタッフ・・・「おはようございます。お迎えに上がりました。」

〇〇さん・・・「おはよう、あら、今日はあなたなのね、すみませんね、いつも。」

息子さん・・・「お母さん、所長さんが自らお迎えに来てくれたんだよ。すずらん行ったら、しっかりお風呂にも入るんだよ。」

〇〇さん・・・「わかってるわよ、この子ったらうるさいねー（笑）。」

そんな会話のやり取りも聞かれるようになり、笑顔も増えて行きました。

しかし、あばら骨の骨折などもあり、ご自宅での介護量は少しずつ増えていき、息子さんご自身の精神的な疲労も大きかったのではないかと思います。

ケアマネジャーの方もいろいろ提案をされ、訪問介護にショートステイなど他のサービス利用も試みることとなりました。

ケアマネジャーの方とも連携をし、またデイとしても息子さんの精神面を少しでもサポートできるようにスタッフ皆で考えました。

そして、数年間、ご自宅での生活を〇〇さんも息子さんも頑張って続けられました。

ですが、ご自宅での介護だけではなく、そろそろ施設入所ということも視野に入れて、今後の事を考えていくことも必要ではないかという事になり、施設入所を検討されるようになりました。

そして、しばらくして、比較的、息子さんが会いに行きやすい場所にある施設があることが分かり、入所されることになりました。

〇〇さんが入所され、しばらくして息子さんがデイサービスに挨拶に来てくださった時の事です。

「いままで本当にお世話になりました。母は、ホームに入所してから、やっと少しずつ落ち着いてきました。

でもね今井さん、今まで母を一生懸命自分が支えているつもりでいたんですけどね、自分が一人になって分かったんですけど、実は「自分も母に支えられていたんだなあ」ということを今、思うんですよね。」としみじみとおっしゃられたのです。

「自分も母に支えられていた・・・」

この言葉に、私はハッとしました。

認知症の状態ではあったとしても、認知症である〇〇さんは一人息子さんの「お母さん」として、立派に息子さんを支えていらっしやったという事実。

お母さんを介護しているときは、そう感じる事が出来なかったけれども。離れ離れになり、後になってから、そう思うようになったけれども。

認知症の状態ではあったけれど、〇〇さんは立派に母親としての役割を果たされていたのだと私は、その時思いました。

それから数年が経ち、息子さんからデイサービスにお手紙が届きました。

〇〇さんがお亡くなりになられたと。大往生だったということでした。

私たち、デイサービスすずらん梅丘のスタッフは、〇〇さんとその息子さんから、

認知症の状態にあったとしても、しっかりと役割や役目を果たすことができることについて、改めて教えていただいたように感じました。

「今井さん、しっかり見てあげなさいよ。認知症の方も、またご家族の事もね。」と〇〇さんから、言われたように思いました。

本当に本当にたくさんの事を教えていただきました。学ばせていただきました。

そして、これからも、デイサービスすずらん梅丘の皆で、たくさんの方のお役に少しでもなれるように努力を重ねて行かなければいけない、またデイサービスというサービ

スに限界はあるかも知れないけれど、自分たちにできる事を精一杯行っていく事が大事であると思わせていただき、本当に感謝の気持ちで一杯です。

〇〇さん、そして息子さん、今まで、本当に本当にありがとうございました。(合掌)

この「物語」は、息子さんにもお読みいただき、ご了解していただいた上で、掲載させて頂いております。

最後までお読みくださいますと、ありがとうございました。

株式会社すずらん
代表取締役 今井康明